

滑稽俳句をつくりましょう②

小林英昭

先月号の「四字熟語を盗め」は、いかがでしたか。もう試されたでしょうか。四字熟語と滑稽俳句の相性がいいのに驚かれたでしょう。季語と四字熟語の的確なコラボが句の良し悪しを決める決定的要因となります。そのためにも日常的に四文字辞典をばらめくるといいでしょうし、変わった方法としてはスーパーなどの書籍コーナーに置いてある「漢字クイズ誌」に載っている四字熟語をそっくり、いただくことです。この冊子は四字熟語の宝庫です。

(ちなみにこの「漢字クイズ誌」は筆者の愛読書)

さて、その②「成語をそのまま頂戴せよ」です。

「成語」を電子辞書で繰れば、①古人がつくり、後人によく引用される語句、②熟語に同じ。と出る。そして、「熟語」とは、①は(略)②一定の言いまわしで特有な意味を表す成句。慣用句。と書いてある。

今回、筆者の言う成語はもっと簡単。日常会話の中から何気なく使っている言葉をそのままいただくという寸法です。そしてそれに季語をくっつけるだけのもの。これ以上簡便な滑稽句づくりはない。

もっともこの方法は、すでに皆さまは意識することなく、実践されている作句方法と同じかもしれませんが、改めて「なるほど」というところを味わってほしいものです。

ここでもまずは季語を選ぶ。そしてここが肝要。日々読んでいる新聞、雑誌、小説など…。で気になった語句を溜めておく。メモをしておくのもいいでしょう。そこへ頭に泳がせてある季語をドッキングさせてみる。ぱちっと音を立てて合体したら、それで一句の出来上がりです。手品のような気持ちはあるが、滑稽俳句の一丁出来上がりといったところです。例えばこうである。どんな言葉でもいいんです。「近ごろは沈みがち」「土砂降りになる」「浮いた噂もなく四十歳」「ここだけの話が好き」「冗談の通じぬ人」「うんとすんとですませる」「目にもものを言わせる」などの言葉が季語とドッキングさせることにより、こうなるのである。

近ごろは沈みがちなる浮人形

土砂降りになつてしまひし蟬時雨

葉桜や浮いたうはさもなく四十

ここだけのはなしの好きな団扇風

冗談の通じぬひとのゐる暑さ

帰省子のうんとすんとですましけり

目にももの言はせてをりし台風圏

あまりにも簡単過ぎて、いささか拍子抜けの感があるでしょう。でも簡単だか

らと言って四字熟語の時も言いましたが、これはあくまでもスランプの時に使う一時的な方法と心得て欲しい。多用は禁物です。以下ここでも図々しく自例句を開陳致します。

白玉につるりと口をすべらせる
釣忍ひと風呂あびてござつぱり
立錐の余地へ西日を入れてくる
団子虫なにかと言へばすぐすねる
なめくちに光り輝く過去がある
しやしやり出てさしでがましき道をしへ
なんだかねわが身のことと思ふ鵜飼
御涙を頂戴します夏芝居
参加者にもれなく付めてくる炎天
本人になりきつてゐるサングラス

次号は、「俳句では使いそうもない言葉をわざわざ選んで使う」です。